

研究事業 衛星観測に関する研究事業(衛星観測センター)

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○この事業は、人員も予算も増える予定であり、着実に推進されている。1号機、2号機も定常処理を継続され、3号機も打ち上げに対しての準備も順調であることを高く評価する。 ○地球温暖化に対する対策立案に資する、一連の重要な成果が上げられたことは評価できる。
今後への期待など
○第5期中長期計画期間に、水循環衛星との相乗りとなるGOSAT-GWが打ち上げられる。主たるセンサーがFTS(フーリエ変換分光計)から回折格子型に変わるそうで、その成果を期待したい。また、その先の4号機についても、JAXAや海外機関とも積極的に連携しながら優れた衛星計画を策定していただきたい。 ○環境研究分野における衛星観測事業は、日本や世界の環境研究全体の中で国環研がその責任をはたすことが期待されており、着実に事業をすすめてほしい。ルーチン的な業務の効率化をはかりつつ、独創的・先進的な課題にも果敢に取り組むことを期待する。気象庁をはじめ国の内外の研究機関・大学との連携や協働がさらに活発になることを希望する。国内だけでなく海外へのアウトリーチにも一定の-effortを振り向けてほしい。

主要意見に対する国環研の考え方
① GOSAT-GWにおけるセンサー方式の変更については今までにないデータが得られる期待とともに、今まで経験したことのないトラブルに直面するリスクもありますので、十分な準備を心がけたいと思います。また4号機についても環境省の方針に従って考えていきます。 ② GOSATの成果は国環研だけでなく、宇宙機関のJAXA、行政官庁の環境省との役割分担や国内研究者によるサイエンスチーム等の助言、世界各国から応募のあった研究公募による共同研究、さらには米中欧・民間の同種衛星との協力／競争の賜物です。今後もこのような様々なレベルのネットワークを維持しつつ本分野の発展に貢献します。 ③「当所に対する期待」に応えるべく、「ルーチン的な業務」の着実な推進と、「先進的な研究」に対する果敢な取り組みを両立できるよう頑張ります。国内外の機関との連携／協働については限られたリソースでより大きな成果をあげられるよう戦略を練ります。またコロナ禍ではありますが、海外へのアウトリーチにも取り組みます。